特別分科会①【高大接続】(共催: -般社団法人大学アドミッション専門職協会)

探究活動とアドミッション

<u>~入試や接続教育で高校までの探究活動をどう位置づけるか~</u>

[報告者] 美濃地裕子(島根大学 大学教育センター 准教授)

[報告者] 綾部 有(関西学院大学 入学センター 専任職員)

[報告者] 木村 拓也(九州大学 人間環境学研究院 教育学部門 准教授)

[コーディネーター] 山本以和子(京都工芸繊維大学 工芸科学部 教授)

高校までの探究活動の経験が、高校生の大学受験活動、入試での扱い、入学後の学修状況にどのような影響につながるかについて事例報告を行った。次に、参加者と高校での探究活動が、受験行動や入試システムに与える影響をディスカッションして、今後の可能性と課題を共有した。

概 略

本フォーラム第 1 部では、高等学校における探究的な学びは、生徒・学生一人ひとりに何をもたらし、大学での研究にどのようにつながっていくかという探究的な学びの可能性の模索を行った。それを受け、本特別分科会①【高大接続】では、高校までの探究活動を、入試や接続教育でどう位置づけるか、というテーマ設定をした。高大接続時に高校までの探究活動について注目して、それを接続で扱っている大学の事例を取り上げた。

事例報告1として、島根大学からは「『学びのタネ』を大学につなげる」と題して、探究心に着眼した育成型入試「へるん入試」の事例が紹介された。知識重視の1点刻みの入試からの脱却を目指し、それとは異なる視点の優秀な人材を集め、育てるために、高校までに育まれた「学びのタネ」を重視する入試・接続教育システムの説明があった。「学びのタネ」とは、好奇心や探究心を指し、島根大学では出願前の段階から、入試、入学前、初年次教育、専門教育の段階まで「学びのタネ」を育てる学習活動および支援を創設している。また「学びのタネ」に着目している「へるん入試」では、書類・面接の配点比率が高く、書類選考の主体性、探究心に関する記載事項の設定にも特徴があった。

事例報告2では、関西学院大学から「『探究評価型入学試験』の事例紹介」として、同大学が従来から実施していたSGH・SSH対象公募推薦入学試験が発展した探究評価型入学試験の事例が紹介された。横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して培った力を評価するとして、学校内外での探究活動の成果や実績を有する者等を対象とした入試を展開している。実際の成果物により完成度を審査し、さらに合格者の探究プロセスやそれを生かした入学後の学びの計画等から、詳細なルーブリックを作成して審査している。また、高校等での探究活動が、探究評価型入学試験を通して、大学での研究につながる一貫した研究内容による高大接続を目指していることが特徴である。

全体討論の内容

事例報告後は、グループに分かれてディスカッションを実施した。テーマ「探究活動を入試でどう評価すればいいか?」と「探究活動は、大学入学後の学習成果に結びつくか?」のうち、1つを選択して、高校・大学それぞれの可能性と課題について、以下のように参加者同士の議論が行われた。

探究活動を入	、試でどう評価すればいいか?

	探究活動を入試でとう評価すればいいか?				
	高校側	大学側			
可能性	・高大接続入試により、幅広い生徒が受験できる可能性が広がる ・探究型入試、総合入試を受験するにあたり、生徒自身が興味関心 や志望動機を内省するので、例え不合格になっても進路(志望学 料)がぶれず、しつかり自分のやりたいことを見つけて進路決定できる ・多様な高校生の進路実現に繋がる。	・大学入学後に伸びる生徒に共通する点。SSH,SGHから探究へ広がるのはいい。島根大学入試で育てるのはいいこと。同じテーマで各大学で高大連携講座を一部行い、同じ基準で評価しては?・成績、基礎学力だけでなく、学びに主体的な学生を見つけることができる・探究で高校とのコラボ(1~3年生)が構築できると、入試時の(大学側)負担が減る可能性がある。・研究テーマや研究内容を通して、大学の学び・研究とのマッチングを図れる点。探究のプロセスを通して、受験者の資質・能力を評価できる点。			
課題	・個人生徒のびてほしい、順位付けは入ってくる、入試と結びつけると本来の探究とはかけ離れてしまう。探究活動観点別に評価しない。 ・探究テーマが志望学部・学科と一致しないことは起こりえるので、テーマとつながる学科しか受けられないような制約はない方が、生徒が素直に進路選択できる・入試において「どう評価されるか」が見えない/見えにくい中での指導への苦労。教員の負担の増大。	・入試判定 →客観的入試はない?どういう生徒が大学に入ってから伸びるのか?現地集合だけだと経済面を考慮してほしい。 ・高校での探究活動をどう評価・採点するか、ルーブリックの公表が非常に難しい ・高校の取り組みによって、格差が拡大する可能性があるが、それをよしとして進めるのが良いことなのか? ・探究型入試を活用できる受験生と、それができない受験生の格差が生じる。 ・志望順位が第2希望以下が多い現状で、地域差とかも出てくる可能性がある。 ・配点や評価の難しさ。探究活動のゴールが「入試」になってしまうことへの懸念。			

探究活動は、大学入学後の学習成果に結びつくか?

	採丸冶靭は、人子人子後の子自成末に細いったが、				
	高校側	大学側			
可能性	・探究学習は確実に進んでいる。協働学習をひっぱる存在になっている。・生徒の中のどこかに残ってくれたらよいと考えて取り組んでいる。趣味でやっている生徒と趣味でやっている教員が取り組んで、勉強するのが好きでない生徒が合格した例もある。	・学科によっては目的志向の学生が捕まえやすくなるかもしれない。・高校生徒が入学前に大学の先生に直接的に指導されると、よりプロセスがみえる化されて評価しやすいのではないか。			
課題	要だがガチッとした成果報告書は、大人の手も必要だし、それに細	・学部・学科・コースによって温度差が出るかもしれない。 ・高校での学びの深さが違うと思われるため「同じ入試で比較して良いのか」という課題が上がっている。 ・大学に入ってからの成績に差がある。3年生まで到達すれば力を発揮できるのだが、1・2年生の教養科目で単位を落としてしまい、続かないことがある。			

到達点と今後の課題

最後に木村氏より、2008 年のJFS新入生調査より得られた研究成果を使って講評があった。 そこでは、探究学習をしているから、高い学修成果を大学で上げているのではなく、探究学習を 経験して培われた自主性を経由して、大学での学修成果につながっていることが判明している。 また、大学入試が変わらないと高校が変わらない、ではなく、探究学習の経験、学生の態度、活 動、行動につながっているのを大学教職員は見て取っている。探究活動を入試で評価するには、 その観点に着目すべきであろう。また、探究活動の経験と大学入学後の学修成果については、探 究学習をした高校生を伸ばすための、高校生から大学生までの教育を整える必要があり、探究学 習を評価した後、入れっぱなしで成果が出るものではないという解説が行われた。 このたびは、探究学習や活動を扱う新しい入試や教育の報告を基に、高大接続に与えるインパクトとその可能性や課題を浮き彫りにできた。その課題について、探究学習にとらわれない総合型選抜を従来から実施してきた大学では、高大接続の中でどのような経験や知見のもと、解決を図ってきたのかを探る必要があると考える。

第19回高大連携教育フォーラム

探究的な学びから研究へ 教育改革のジャンピングボードになるには

「学びのタネ」を大学につなげる

島根大学 教育・学生支援本部 大学教育センター 教授 泉 雄二郎 准教授 美濃地裕子

スライド2

本日の要旨

- I 学びのタネを重視するへるん入試
- 2 入学者の思い
- 3 評価の仕方
- 4 育成型入試としてのへるん入試 出願前教育 → 入学前教育 → 初年次教育

スライド3

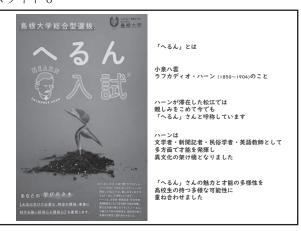
島根大学の特徴 人とともに	地域とともに	
規模		
松江キャンパス	募集人員	
法文学部	185	
教育学部	130	
人間科学部	8 0	
総合理工学部	400	
生物資源科学部	200	
出雲キャンパス		
医学部	162	
	1157	

スライド4

	島根大学の入試 全体の枠組	1み
一般選抜 →	前期日程 後期日程	70%
特別選抜 →	「大学入学共通テストを課す」 学校推薦型選抜 II 医・医 (学校推薦・地域・緊急) 医・看 (学校推薦) 総合型選抜 II 教育 1 類 (一般型・地域) 人間科学 (一般型・地域)	10%
	【大学入学共通テストを課さない】 総合型選抜 I = 「へるん入試」 法文・教育I類・総合理エ・生物資源	20%

スライド5

	へるん入試	募集人	Į.	
		一般型	特定型	
法文学部	6 2	4 5	1 7	
教育学部	1 0		1 0	
総合理工学部	115	8 4	3 1	
生物資源学部	7 0	4 8	2 2	
合計	2 5 7	177	8 0	



|-| 趣 旨

知識重視の | 点刻みの入試からの脱却

 \downarrow

従来とは異なる視点から優秀な人材を集め、育てたい

 \downarrow

高校までに育まれた「学びのタネ」を重視

1

学びのタネ = 物事への疑問 (好奇心) 課題解決に対する意欲・姿勢 (探究心)

 \downarrow

自由な発想・ユニークな視点を持つ学生を選抜

 \downarrow

一般選抜の入学する学生にもいい影響を与えることに期待

スライド8

Ⅰ-2 学びのタネ

好奇心と探究心 が 学びのタネ

「面白いな、もっと深く学んでみたいな」 教科の豊かさに心動かされた

「どうすれば解決するのだろう」

課題を解決したいと思った

感動、違和感、疑問、課題意識、貢献意識

ぜんぶ「学びのタネ」

資格・成果に限るものではなく

志向・興味といった 目に見えないもの、ささやかなもの

スライド9

えっ 違和感 なんか へんだなあ

どうして なんで 好奇心 探究心

すごい すてき

憧れ

スライド 10

I − 3 アドミッションポリシー

具体的には以下のような学生を求めます

- ・ 大学での学びに必要な基礎的学力を有する人
- 特定の学問・教科に関心を持ち それに継続的に向きあったことのある人
- 知的好奇心を有し、それを主体的・積極的な探究により深めた経験のある人
- ・ 他者と協働して何かをなし それを自らの学びに役立てたことのある人

スライド 11

I-4 多面的・総合的評価のとらえ方

- 自分の長所や強い思いが活かせる
- 取り組みの本気度を大学につなげたい
- 学びたい、深めたい学びを実現できそう

 \uparrow

多面的・総合的に評価する選考により

- 取り組んでみたいことをもって入学してくる学生
- 主体的に学ぶ構えを備えている学生
- 協働的に課題解決に取り組もうとする学生 を獲得できる

スライド 12

2-1 なぜ へるん入試 に出願したのですか?

【法文・社会文化/地域志向】

- 自分の経験を最大限に活かすことが出来ると思ったから。
 今までの経験を一度自分の言葉で調明できた方が得来役にたつと思ったから。(今まで自分は何をしてきて えれからは何を研究したいのかを整理した技能で大学に入学した方が絶対プラスになると思ったから。)
- 【総合理工・建築デザイン/スポーツ・芸術・技能】

私は工業高校出身で、3年間建築を学んできました。クローズアップシートを通して、授業や部活動で建築を 学んだこと、建築に関する検定に取り組んだことなどをアピール出来ると思い、へるん入試を受験しようと思 いました。

【生物資源・環境共生/地域志向】

大学受験にあたって、私は高校生活でやってきたことを最大限評価してくれる大学を探していました。そんな 折に一年生の時から識路相談をしてもらった先生からへるん入試を紹介してもらったことがきっかけて、へる 人入試を受験しようと思いました。

【教育・音楽】

コロナ橋によって大会どころか、練習さえも制限されとても悔しい思いを味わいました。そこで、私は合唱 で得た傷動や悔しさ、そしてどうしたら沢山の人に合唱の魅力をコロナ橋でも伝えられるかという学びのタネ を持っていることに気づき、受験決決めました。 (私は受験の時学びのタネは自分の大好きな合唱を子供達 に広げ、合唱の輪を大きくてきる教師のようなことを書きました。)

スライド 14

調査書・調査書別紙 調査書 ・部活動 ・生徒会活動 ・学校行事 ・探究的な学習の時間や探究型学習 「記載要領」にしたがって 探究的な学習 ・探究的な学習 ・探究のな学習の時間 ・各教料の学習 ・地域探究活動など くわしく記載

スライド 15

調査書別紙 主体性・探究心 に関する記述

探究的活動に対する主体性、探究心に関する特徴を具体的に記述してください

(1) 主体性の具体

活動の意義を認識し 具体的に取り組んだことや取り組みに対して振り返りが行われ 失敗や問題を克服しようとしたことなどを簡潔に記述してください

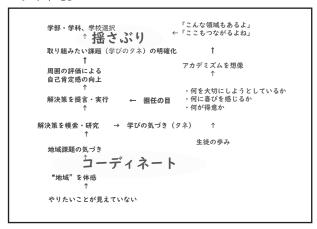
(2) 探究心の具体

情報収集を積極的に行ったことや 仮説、検証の手続きをとることができたことなど簡潔に記述してください

その際、本人から面接や質問票等によって、以下のことを確認し 記述されることが望ましいです

- ① なぜそのテーマや問題・課題を探究しようと思いましたか
- ② 探究的な取り組みをする中で、どんな気づきがあり そのことを活動の中にどう活かそうとしましたか
- ③ 探究的な取り組みをする中でどんなことに苦労しましたか
- ④ 探究的な取り組みをしたことによって得られたことは何ですか

スライド 16



スライド 17

3-2 クローズアップシート

「クローズアップシート」は 志願者が記述するものです

高校段階の活動の中で最も力を入れて取り組んだものを 一つだけ挙げて

- ・その活動にどう取り組んだのか
- ・振り返って記述してください

800字程度にまとめてください。

※ 志望理由書に記載する「学びのタネ」に 関係があることでも

ないことでも かまいません

スライド 18

体験したことを 言葉にして、価値づけする

- ① 問題・課題を探究しようと思った理由・きっかけ
- ② 苦労したこと・失敗したこと
- ③ 取り組みの中の気づきと気づきに基づく発展
- ④ 取り組みによって得られたこと

3-3 志望理由書

「志望理由書」は、志願者が記述するものです

- 学びのタネ
 - ・学びのタネは40字以内で記述します
 - ・簡潔な記述でも構いません
- ・記述した字数の長短は問いません
- ※ 今後、記載例をホームページに掲載しますので参照してください
- ・なぜ島根大学で学びたいのか何を、どう学びたいのかを記述します

スライド 20

- ・物理の知識を極めて 地域に貢献する人材を育てる教員になりたい。 理科教育学
- ・プログラム言語は学校以外でも自学しており 将来はシステムエンジニアになる。

ソフトウェア工学

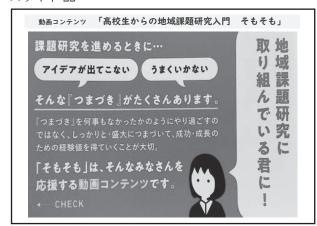
- ・世界一エコで暮らしやすい家を造る。 島根大学研究ラインナップ 建築環境工学
- 生命の本質に迫りたい。分子生物学
- ・効率的な農業生産と快適な暮らしを両立させて 豊かで元気な農村社会を実現する。 ^{農村経済学}

スライド 21

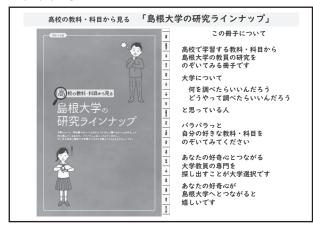
4-1 出願前教育

- ①動画「高校生からの地域課題研究入門」
- ②冊子「高校の教科・科目から見る 島根大学の研究ラインナップ」
- ③Webサイト「へるんスクエア」
- ④Web面談 「地域志向型入試面談」

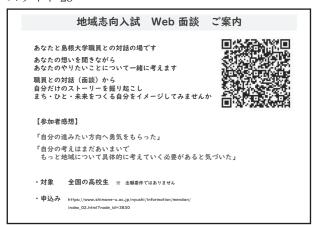
スライド22



スライド23







スライド 26

4-2 入学前教育(ぷれ大学)

- ① **入学前セミナー** (12月) 在学生とのグループディスカッションなど
- ② 英語eラーニング (12月~3月)
- ③ LMSによる学科専攻別課題 (12月~3月)

スライド27

4-3 初年次教育

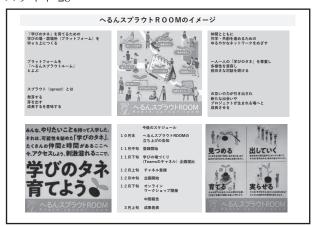
- スタートアップ・イングリッシュ 英語が苦手な学生のための英語クラス
- ② フレッシュゼミナール

「学びのタネ」を深化・展開するために専門分野に 触れる機会を学科ごとに設けた講座

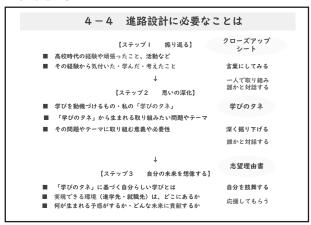
③ へるんスプラウトROOM

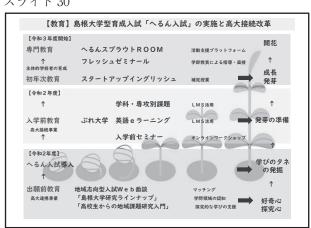
「学びのタネ」を育てるための居場所・学びの場 プラットフォームをWeb上に立ち上げ

スライド28



スライド 29







スライド2



2016年 SGH·SSH対象公募推薦入学試験導入

- 2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグロー バルハイスクール事業においては、急速にグローバル化 が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い 教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の 国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大 連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指して <u>いる。</u>
- このスーパーグローバルハイスクールや本学が教育連携 を行う高等学校において、課題研究を通じて能力を高め た生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け 入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業へ の接続を促進するための公募推薦入学試験を実施する。

スライド3



探究評価型入学試験の変革

< 2016年度入試 > SGH対象公募推薦入学 SSH対象公募推薦入学



< 2021年度入試 > SGH対象入学試験 SSH対象入学試験 探究(課題研究)評価型

入学試験



< 2022年度入試 > 探究評価型入学試験

スライド4



アドミッション・ポリシー

1. 探究評価型入学試験のアドミッション・ポリシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取 り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモット Mastery for Service(奉仕のための練達)"を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としていま す。その使命を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求め、本入学試験を実施します。

本入学試験では、本学で学ぶにふさわしい知識・技能、思考力・判断力・表現力を有しているだけでなく、横断 的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく 問題を解決する資質や能力を持ち、多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけた生徒を求めています。

第一次審査においては書類審査を行います。横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して培った力を提出書類 にて多面的、多元的に評価します。

さらに第二次審査において、学部年に面接・集団附論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。高等学校での学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではあり

出願資格として、英語資格・検定試験スコア CEFR A2レベル以上を有する者と設定しています。

スライド5



出願資格

- 次のA~Cいずれかに該当すること。
 - 次のA~Cいずれかに該当すること。
 A、文部科学名的接定するスーパーグローバルハイスクール (SGH または SGH アソシエイト校) に指定された実績のある高等学校および中等教育学校の生徒である。
 B、文部科学省の指定するスーパーサイエンスハイスクール (SSH) に指定された高等学校および中等教育学校らしくは当まるSSH に指定された高等学校および中等教育学校の生徒である。
 C. 高等学校もしくは当まるSSH に指定された実績のある高等学校および中等教育学校の生徒である。
 C. 高等学校もしくは中等教育学校等での自身の探究活動について、学校外の機関や団体が主催する大会

 - やコンテスト等 (規模やレベルは問わないが、主催が自身の在籍する学校以外であること。) で成果 発表等を行った生徒である。
- ③ 積極的な勉学意欲を有する者で、所属する高等学校等での教育課程内の授業等において探究活動に取り組んでいる者もしくは取り組んだ者。
- ④ 本学が指定する英語資格・検定試験のスコアを有する者

 - 〈文系学部〉 英語資格・検定試験 CEFR B1 以上を有する者
 〈理・工・生命環境・建築学部〉 英語資格・検定試験 CEFR A2 以上を有する者
 ※文部科学省(平成30年 3 月)発表の『各資格・検定試験と CEFR との対照表』に記載のあるもので、 正規スコアとする。また、各民間試験運営機関が定める有効期限内のものに限る。 詳しくは本学入試情報サイト(https://www.kwansei.ac.jp/kgcefr)をご確認ください。

スライド6



提出書類

【本学所定用紙】 出願者本人が自葉で黒ボールペンを使い、丁寧に記入してください(消せるボールペンは不可)。 なお、記入を誤った場合は、二重線を引いて訂正印を押印し、正しく書きなおしてください。 ③探究活動の概要説明書 (探究活動の成果物 ◆論文の場合◆ ◆譲文の場合◆

「 論文 (エピー明)」
② 論文業旨 (日本語に限る、書式自由、A4サイズ1枚以内)
② 論文業旨 (日本語に限る、書式自由、A4サイズ1枚以内)
《 (計2業項)
・ (1) 論文 (が実際で作成したものであっても、② (第文業目) は必ず日本語で作成してください。
・ (2) 「第次業別 に、第文中に当成から場合さ、別 ②金作成し提出してください。
・ 第次が定成していない場合、作成途中度原で強なを提出してください。
・ 本の場合は、論文の概要が定域された「**第文作成の計画者** (日本語に限る、書式自由、A4サイズ)を別途作成し、必ず提出してください。
◆発表の記録 (ポスター・フレゼンテーション資料など) の場合◆

・ 発表の記録 (ポスター・フレゼンテーション資料など) の場合◆
② (②の限用書 (日本語に限る、書式自由、A4サイズ1枚以内)]
《注意 年刊》 複数ある場合は1つを 選び提出してください

<注意サリ> 説明書には、発表の場所や結果、グループ発表の場合は自分の役割、振り返りなど詳細に記載し

◆実験成果の場合◆

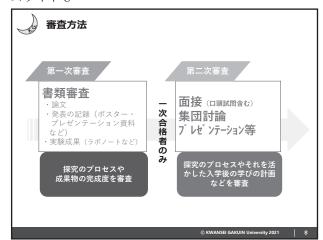
▼果昀珠米の場合▼ ①ラポノートとど実験で作成、利用した資料 ② 「②の説明書(日本語に限る、書式自由、A4サイズ1枚以内)」 〈社章事习〉 説明書には、実験の目的・仮説、内容、自分の役割、結果、結果を踏まえた展望など詳細に記載



| 探究活動の概要説明書

- *テーマ
- *単独/共同
- *共同の場合、自身の役割や担当箇所
- *参考文献
- *指導を受けた外部機関
- *フィールドスタディ、調査を行った詳細
- *取り組んだ内容(目的・仮説・内容、テーマを 選んだ理由、期間、振り返り、今後に活かしたいこと

スライド8



スライド9



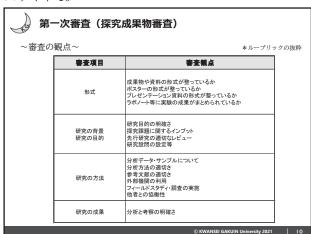
第一次審査 (探究成果物審査)

ি 探究成果物は、

「論文」「発表の記録(ポスター・プレゼン資料)」 「実験成果(ラボノートなど)」

- ♠大学教員+アドミッション・オフィサーが審査
- № 1つの探究成果物に対して2人で審査
- 像ルーブリックに基づき審査

スライド 10



スライド11



第二次審査

志望学部において、それぞれの学部のAPに基づき

面接(口頭試問含む)、プレゼンテーション、グループ ディスカッション等

を行う。

例) 法学部 第二次審査

プレゼンテーション用のレジュメをA4サイズ用紙1枚に出願者本人が自筆で作成し、提出すること。試験当日は、レジュメをもとにプレゼンテーション(約5分)実施後、面接を含む質疑応答(約15分)を行う。なお、プレゼン時は、法学部が用意するホワイトボードのみ使 用可とする。

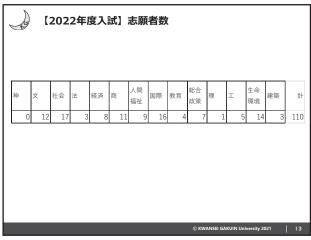
スライド 12



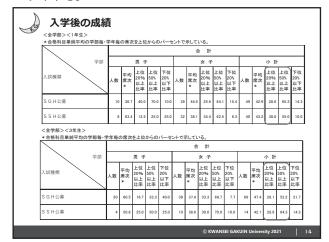
第二次審査のねらい

・プレゼンテーションを通じて探究成果物完成までのプロセス、目的、仮説、テーマを選んだ理由、探究活動から学んだもの、成長できたことなどを問う。

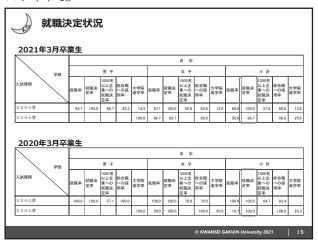
・なぜ関西学院大学の○○学部を志望するのか、○○学 部での学びの計画を、上記探究活動で得たものと、結び 付けて延べよ。(例:教育学部 最近の教育に関する ニュースなどテーマを与えてグループディスカッション を実施)



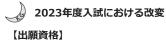
スライド 14



スライド 15



スライド 16



- ・ 積極的な勉学意欲を有する者で、所属する高等学校もしく は中等教育学校等における「教育課程内の授業」<u>もしくは「正</u> 課外活動」にて探究活動に取り組んでいる者もしくは取り組ん だ者。
- ・高等学校もしくは中等教育学校等での自身の探究活動において、学校内での発表会や他校との合同発表会、外部機関が主催する大会やコンテスト等(規模やレベルは問わない)で発表を行った者。

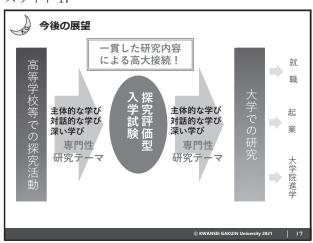
【提出書類】

概要書にてより深く探究のプロセスを問う形式に改変する。

© KWANSEI GAKUIN University 2021

| 16

スライド 17







スライド2

10年以上削ル・フロット 探求学習経験を分析 自己紹介 大学入試に関する仕事 大学入試に関する仕事 大学入試に関する仕事 大学入試に関する仕事 大学入試に関する仕事 大学入式に関する仕事 大学入式に関する仕事 大学入式に関する仕事 大学入式に関する仕事 大学入式に関する仕事 10年以上前から高校生の

探求学習経験で、学生群を6つに分け

- 1. 無目的型 25.9%
- 2. 探求学習型A(無理解入学)24.5%
- 3. 高校指導従順型 15.1% 4. 受験勉強型(他律型)12.0%
- 5. 探求学習型B(本命入学)11.6%
- 6. 受験勉強型(自律型) 10.8%

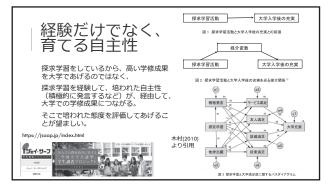
探求学習の経験が多くなっている現在、現在のデータ で分析すると結果が変わっている可能性がある

76所入子71世紀プログブムの美術と建名 (2012-2016) 九州大学教育学部国際入試を設計(2019) 現在、大学入試センター研究開発部 客員教授 (2021-現在)

また、一般社団法人 大学アドミッション 専門職協会理事長(2020-現在)

アジアからの高大接続に関心 デジアからの高大接続

スライド3



スライド4



探求型入試のエビデンスをどう継 続的に作り、学内に説明していく のか?

学修成果にどう結びつくのかを実証し、学内に理解してもらい続け る必要がある。

例) ラーニングポートフォリオに よる学生群ごとのテキストマイニ ング分析

木村(2018)、山田・木村(2021)から



スライド5

入学者、出願者へのメッセージを送り続けるために、大学全体での体制 づくりの重要性

大学人として、大学で充実して欲しいことが最大の願い

大学入試が変わらないと、高校が変わらない、ではなく、

学生の態度、活動、行動を見て、確実に、高校での変化 (探求学習の経験) が、大学で教職員が実感できている。

(分の機能) 大学にさいる。 例)研究室を志望する学生が、高校時代の探求学習の失敗を、大学にきて、学問をして、乗り越えたいといって、研究室に入ってくる。 探求学習した高校生を、大学で伸ばすための出願前のアプローチ、入学前教育、初年 次教育、専門教育、大学院教育が必要になってくる。

入れっぱなし、で終わりではないし、入試課やアドミッションセンターだけの仕事ではない。大学全体の意識の向上、連携が必要。

スライド6

参考文献

木村拓也「大学入学者選抜は『高大連携活動』をどこまで評価すべきか? ――『評価尺度の多元化・複数化』が 孕む大学入学者遊り頭の自己矛盾』International Society for Education国際教育学会職『クオリティ・エデュケー ション』2号、pp.137-155、2009年3月.

<u>木村拓也</u>「高校での探求学習経験が初年次学生に与える 影響――JF32008の結果から」International Society for Education(国際教育学会)編『クオリティ・エデュケーショ ン』 3号、pp.77-94、2010年3月.

木村拓也・田尾周一郎・林篤裕・副島雄児「総合的目つ 多面的な評価に基づく入学者選抜とその学修成果の可視 化・九州大学2世紀プログラムの事例』『名古屋高等教育 研究』18号、2018年3月、pp.177-198.

山田礼子・<u>木村柘也</u>編『学修成果の可視化と内部質保証 一日本型IRの課題』、玉川大学出版部、2021年11月

